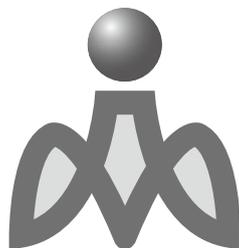


山 梨 県

商工会地区

中小企業景況調査報告書

〔平成26年10月～12月実績〕
〔平成27年1月～3月予測〕



未来に敏感、人が中心

山梨県商工会連合会

目 次

I 調査要領	1
II 景 況	
1. 産業全体の業況概観	2
2. 製造業の動向	
(1) 景況概観	3
(2) 主な項目でみる業況	3
3. 建設業の動向	
(1) 景況概観	6
(2) 主な項目でみる業況	6
4. 小売業の動向	
(1) 景況概観	9
(2) 主な項目でみる業況	9
5. サービス業の動向	
(1) 景況概観	12
(2) 主な項目でみる業況	12

【I】 調 査 要 領

1. 調 査 対 象

(1) 対象地区 19商工会 (2) 対象企業数 165企業 (3) 回答企業数 165企業

2. 調査対象期間

第3四半期 平成26年10月～12月期 「調査時点：平成26年11月15日」

3. 調 査 方 法

県下の調査対象企業を19商工会の経営指導員等が訪問面接調査

4. 調査対象企業（モニター企業）の商工会別、業種内訳

商工会名	製 造 業	建 設 業	小 売 業	サービ業	計
都 留 市	3	2	3	4	12
山 梨 市	1	2	2	3	8
大 月 市	2	1	3	2	8
韭 崎 市	2	2	1	2	7
南アルプス市	3	2	4	6	15
北 杜 市	4	2	5	4	15
甲 斐 市	4	3	5	2	14
笛 吹 市	3	2	4	6	15
上 野 原 市	2	1	2	2	7
甲 州 市	3	1	2	3	9
中 央 市	2	1	2	1	6
市 川 三 郷 町	2	1	1	2	6
身 延 町	1	1	2	2	6
南 部 町	1	0	1	1	3
富 士 川 町	1	1	1	2	5
昭 和 町	1	1	3	3	8
西 桂 町	0	0	1	1	2
南 都 留 中 部	1	1	2	2	6
河 口 湖	1	1	6	5	13
計	37	25	50	53	165

5. そ の 他

①本報告書のDIとは、ディフュージョン・インデックス（景気動向指数）の略で、各調査項目について前年同期と比較して、増加（上昇、好転、長期化等）とする企業割合と、逆に減少（低下、悪化、短期化等）とする企業割合の差を示すものである。

②次頁【II】1. 産業全体の業況概観・・・については、商工会調査企業ばかりでなく、他の本県経済団体調査企業（卸売業を含む）を含んだ286サンプルによるものである。

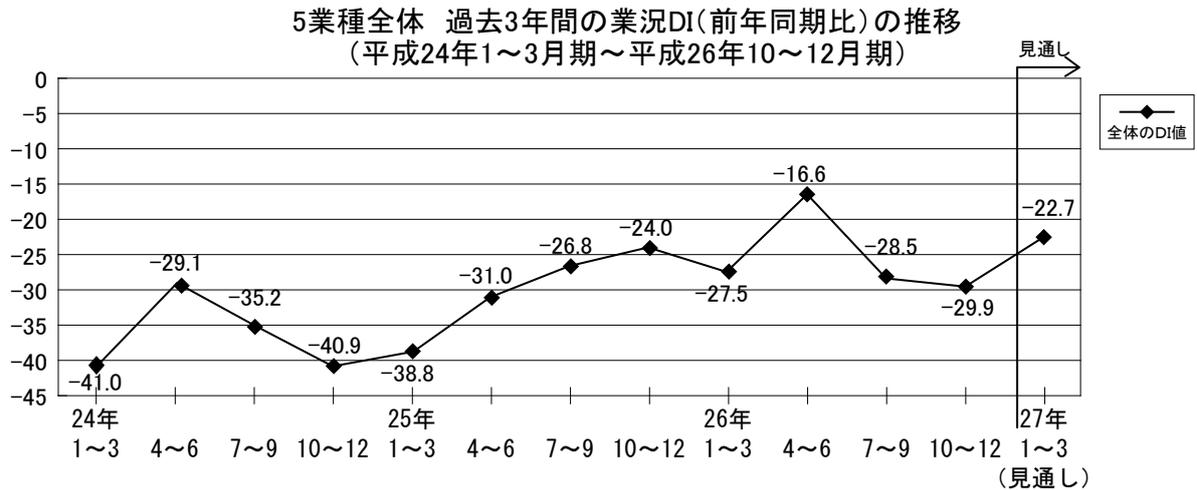
【Ⅱ】 景 況

1. 産業全体の業況概観

本県における5業種全体の業況判断DI、及び、産業別の業況判断DIについてみる。

まず、前年同期比でみた過去3年間の5業種全体の業況判断DIである。今期の業況判断DIは、▲29.9と前期比で1.4ポイント悪化している。

ただし、来期については、▲22.7と今期より7.2ポイント改善する見通しである。

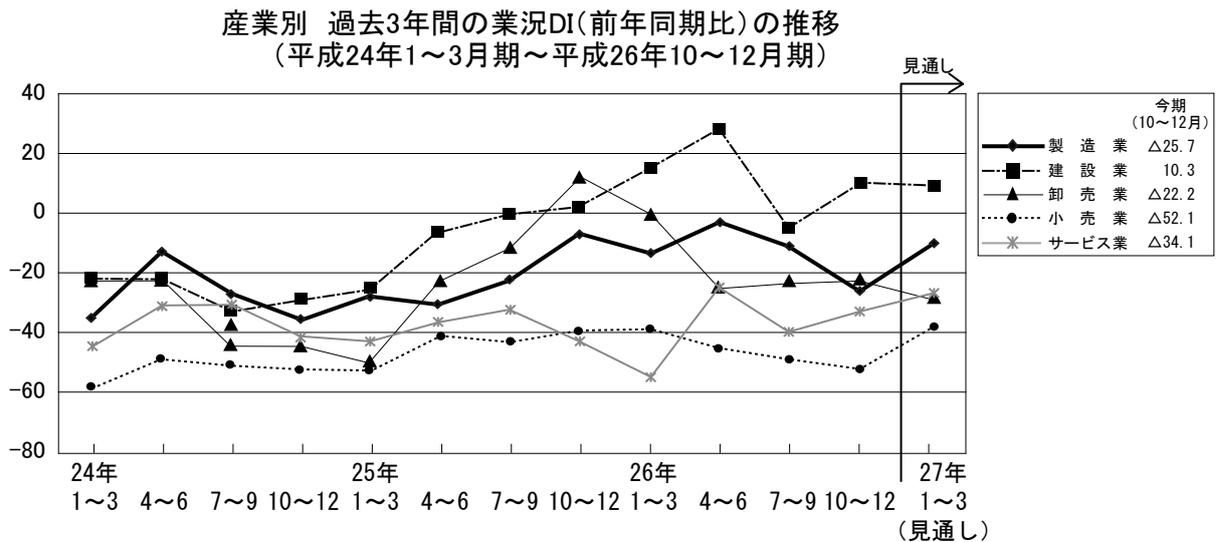


次に、前年同期比でみた過去3年間の産業別の業況判断DIである。

製造業が▲25.7と前期比で15.3ポイント、小売業が▲52.1と前期比で4.1ポイント悪化している。

一方、建設業が10.3と前期比で15.4ポイント、サービス業が▲34.1と前期比で5.2ポイント改善している。また、卸売業は前期比で横ばいの▲22.2となっている。

来期は、製造業、小売業が大幅に改善するものの、卸売業が落ち込む見通しとなっている。



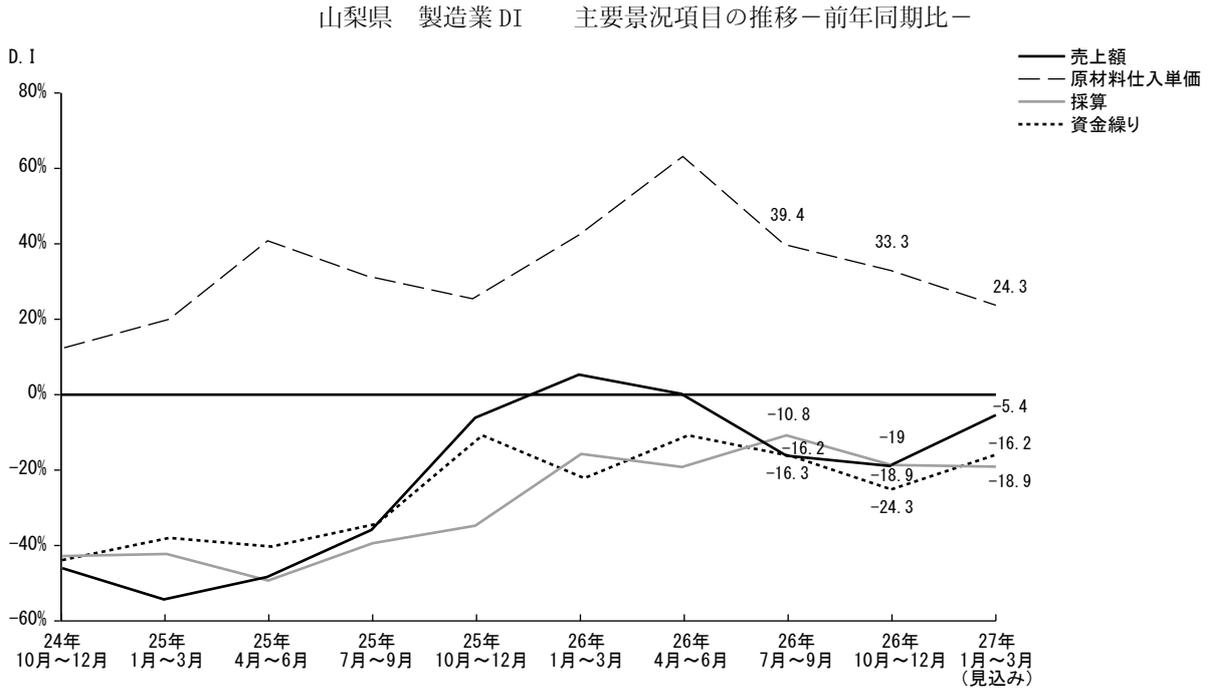
【注記】上記、産業全体の業況概観については、県内経済団体が調査した286企業の回答に基づく県内全体の業況DIである。なお、次ページ以降は、商工会が調査した165企業（全て小規模企業）の回答に基づく商工会エリア（甲府市・富士吉田市地域を除く）の業種別景況DI等の詳細である。

2. 製造業の動向

(1) 景況概観

売上額DIについては、今期は▲19.0と前期比で2.7ポイント悪化している。一方、来期の見通しは、大幅に改善して▲5.4となっている。原料仕入単価DIは、今期は33.3と前期比で6.1ポイント低下(改善)している。来期は24.3と更に改善する見通しとなっている。採算DIは、今期は▲18.9と前期比で8.1ポイント悪化している。来期の見通しは、横ばいとなっている。資金繰りDIは、今期は▲24.3と前期比で8.1ポイント悪化している。一方、来期の見通しは、改善して▲16.2となっている。

今期、原料仕入単価DIにおいて、改善傾向がみられるとともに、来期は、売上額DI、資金繰りDIにおいても改善見通しとなっている。

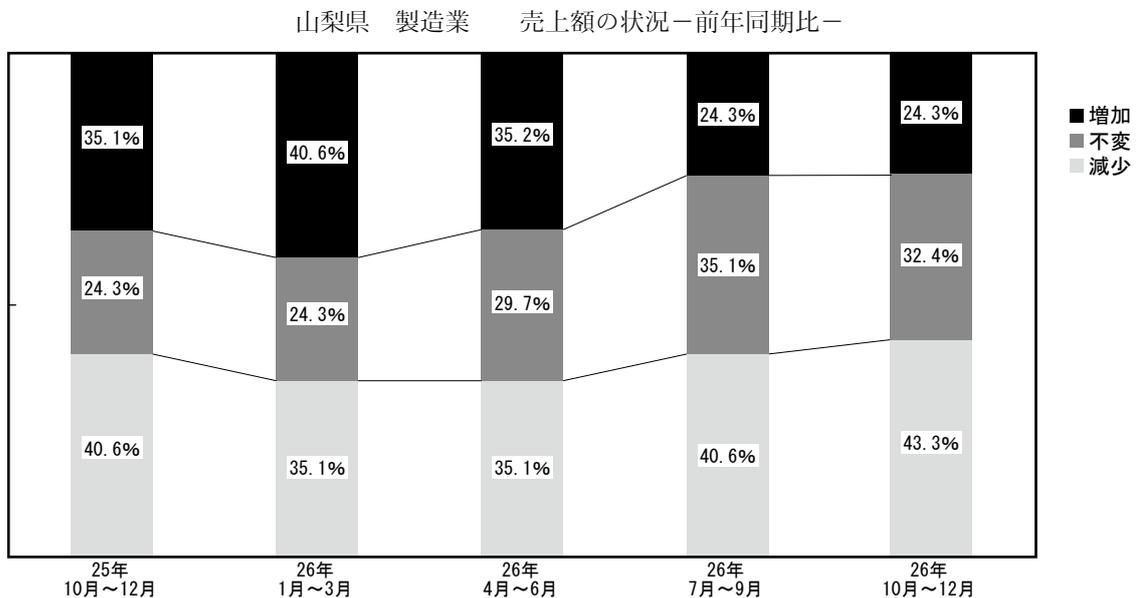


(2) 主な項目で見る業況

① 売上額 (売上額DIの内容 (回答企業数 37社))

「増加」と答えた企業の割合は、24.3% (9社) と横ばいとなっている。

「不変」は32.4% (12社) と減少 (前期比 ▲1社) し、「減少」は43.3% (16社) と増加 (同 +1社) している。



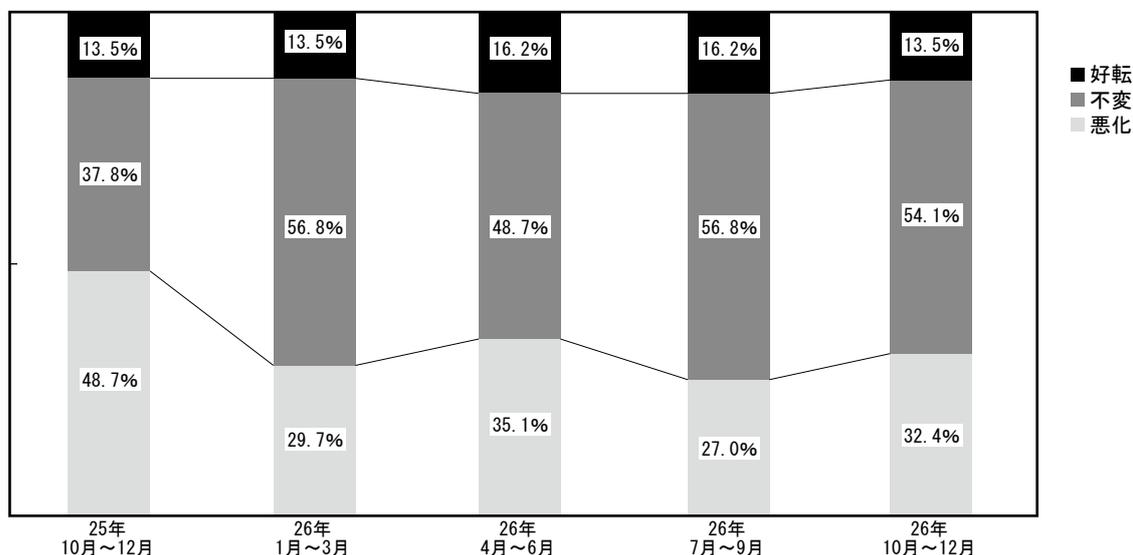
② 採算（採算 DI の内容（回答企業数 37 社））

※ 本調査では、経常利益を「採算」として尋ねている。

「好転」と答えた企業の割合は、13.5%（5 社）と減少（前期比 ▲ 1 社）している。

また、「不変」は 54.1%（20 社）と減少（前期比 ▲ 1 社）している一方、「悪化」は 32.4%（12 社）と増加（同 + 2 社）している。

山梨県 製造業 採算の状況－前年同期比－

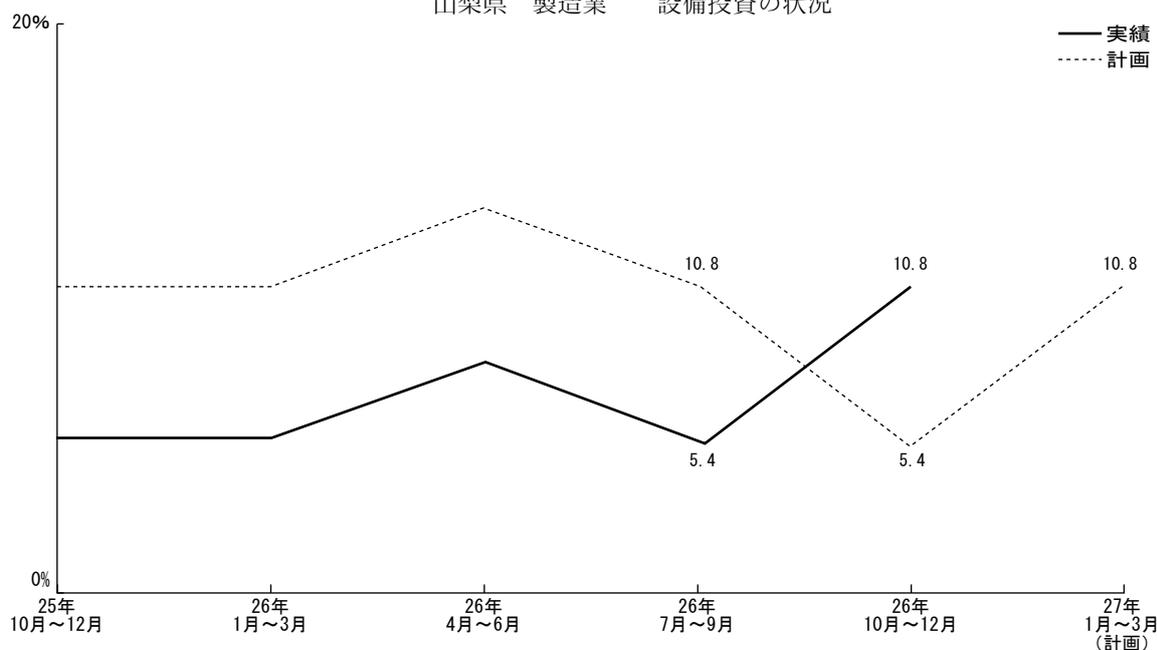


③ 設備投資（直近 1 年間における設備投資の状況（回答企業数 37 社））

今期において、設備投資を行った企業の割合は 10.8%（4 社）であった（前期比 + 5.4%）。その設備投資の内容は、「生産設備」3 件、「付帯施設」、「その他」が 1 件ずつであった。

来期の計画については、10.8%（4 社）の企業が予定している。その設備投資の内容は、「生産設備」が 3 件、「付帯施設」が 2 件、「工場建物」が 1 件になる。

山梨県 製造業 設備投資の状況



④ 経営上の問題点（回答企業数 34 社）

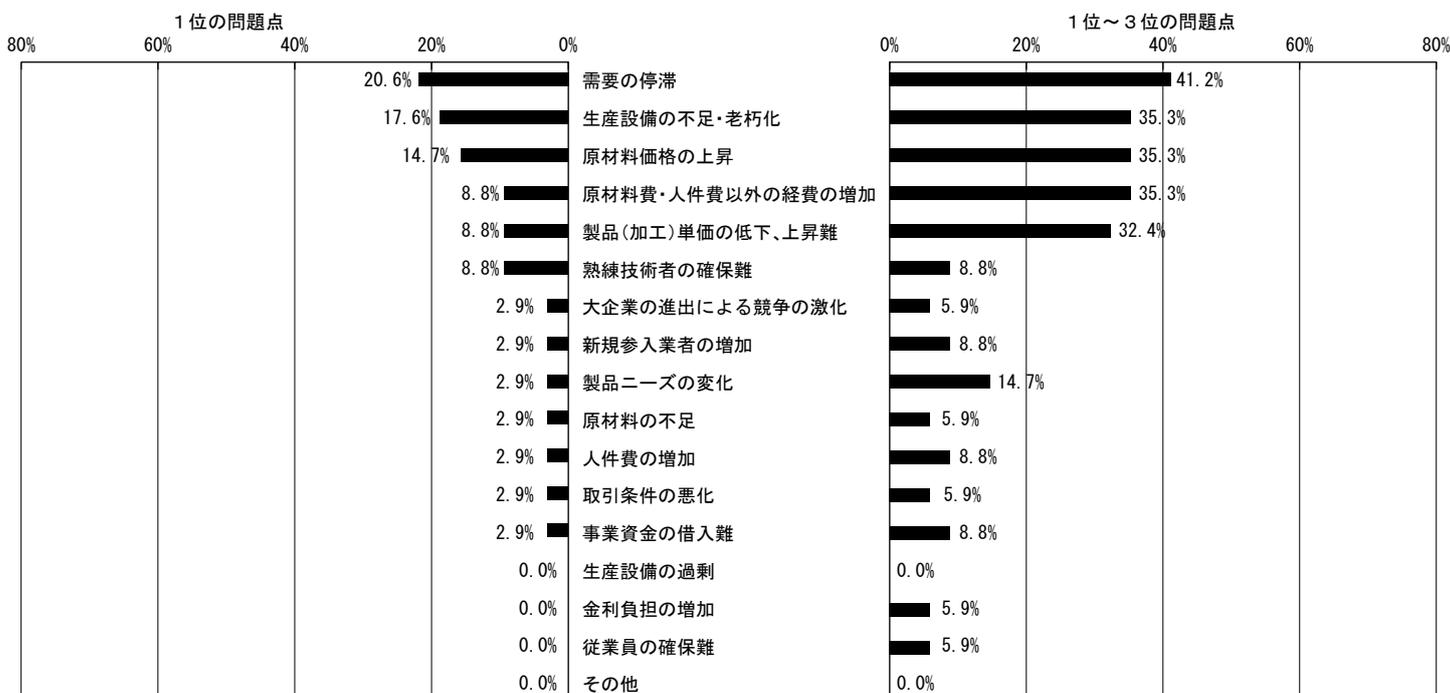
まず、経営上の問題点として、「1 位」に挙げられたものからみていく。

1 番目に多かったのは、「需要の停滞」の 20.6%（7 社）であり、2 番目は、「生産設備の不足・老朽化」の 17.6%（6 社）になる。さらに、「原材料価格の上昇」などが続く。

次に、「1 位～3 位」に挙げられたものをみる。

1 番目に多かったのは、「需要の停滞」の 41.2%（14 社）であり、2 番目に多かったのは、「生産設備の不足・老朽化」、「原材料価格の上昇」、「原材料費・人件費以外の経費の増加」（ともに 35.3%（12 社））になる。また、「製品（加工）単価の低下、上昇難」の 32.4%（11 社）も目立つ。

山梨県 製造業 経営上の問題点の状況



⑤ 回答企業の内訳

業種別

業種	企業数	構成比(%)
食料品製造業	5	14
飲料・飼料・たばこ製造業	1	3
衣服・その他繊維製品製造業	1	3
印刷・同関連業	2	5
化学工業	2	5
プラスチック製品製造業	4	11
金属製品製造業	2	5
一般機械器具製造業	12	32
電気機械器具製造業	2	5
輸送用機械器具製造業	1	3
その他製造業	5	14
合計	37	100

従業員規模別

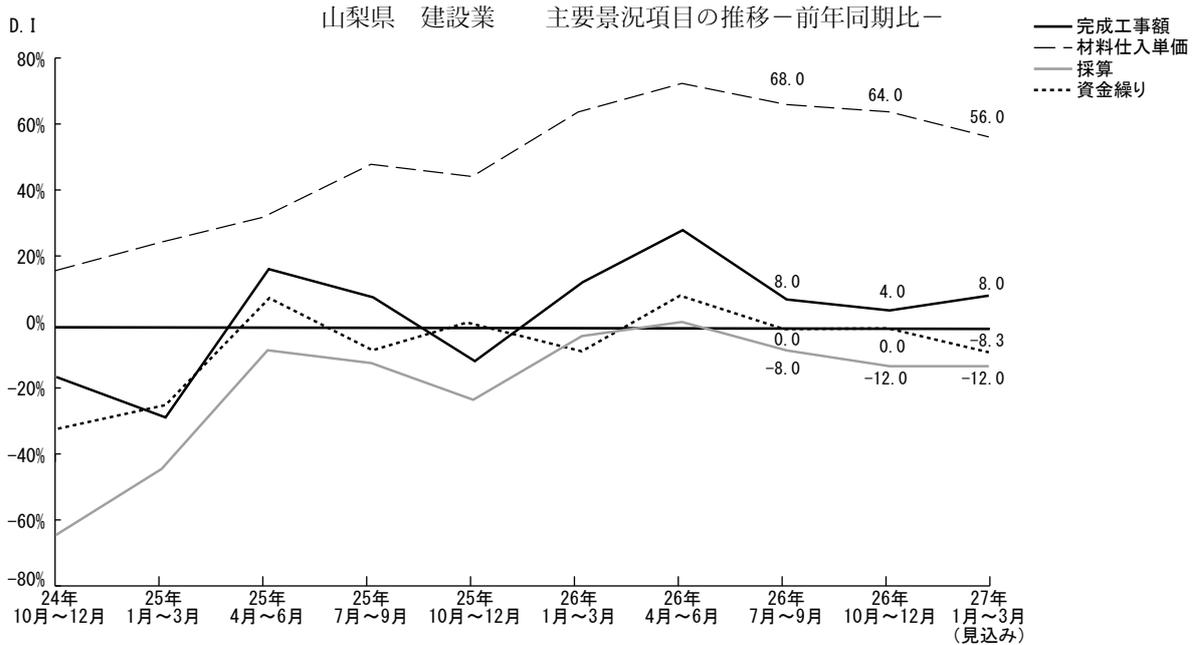
従業員数	雇用形態		臨時等含む	
	常雇い	臨時等含む	企業数	構成比(%)
2人以下	23	62.2	19	51.4
3人～5人以下	6	16.2	5	13.5
6人～10人以下	4	10.8	8	21.6
11人～20人以下	4	10.8	5	13.5
合計	37	100	37	100

3. 建設業の動向

(1) 景況概観

完成工事額D Iについては、今期は4.0と前期比で4.0ポイント悪化している。一方、来期の見通しは8.0の改善となっている。材料仕入単価D Iは、今期は64.0と前期比で4.0ポイント低下（改善）している。来期は56.0と更に低下（改善）する見通しとなっている。採算D Iは、今期は▲12.0と前期比で4.0ポイント悪化している。来期の見通しは、横ばいとなっている。資金繰りD Iは、今期は±0.0と前期から横ばい、来期は▲8.3と悪化する見通しとなっている。

材料仕入単価D Iに改善傾向が見られるとともに、来期は、完成工事額D Iにおいても改善見通しとなっている。

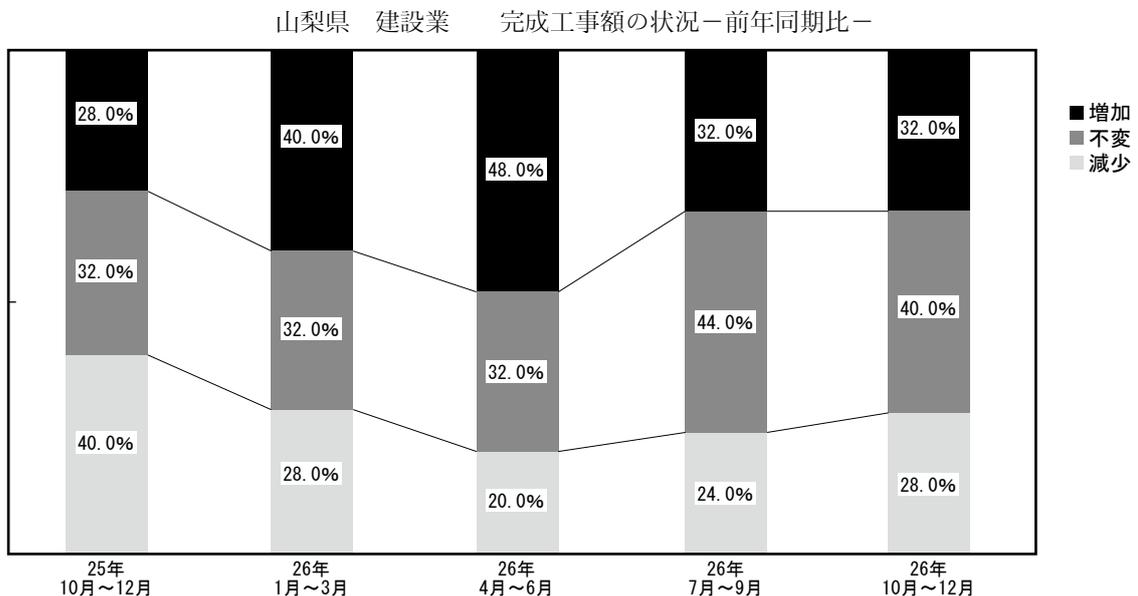


(2) 主な項目で見る業況

① 完成工事額（回答企業数 25 社）

「増加」と答えた企業の割合は、32.0%（8社）と横ばいとなっている。

「不変」は40.0%（10社）と減少（前期比 ▲1社）し、「減少」は28.0%（7社）と増加（同 +1社）している。



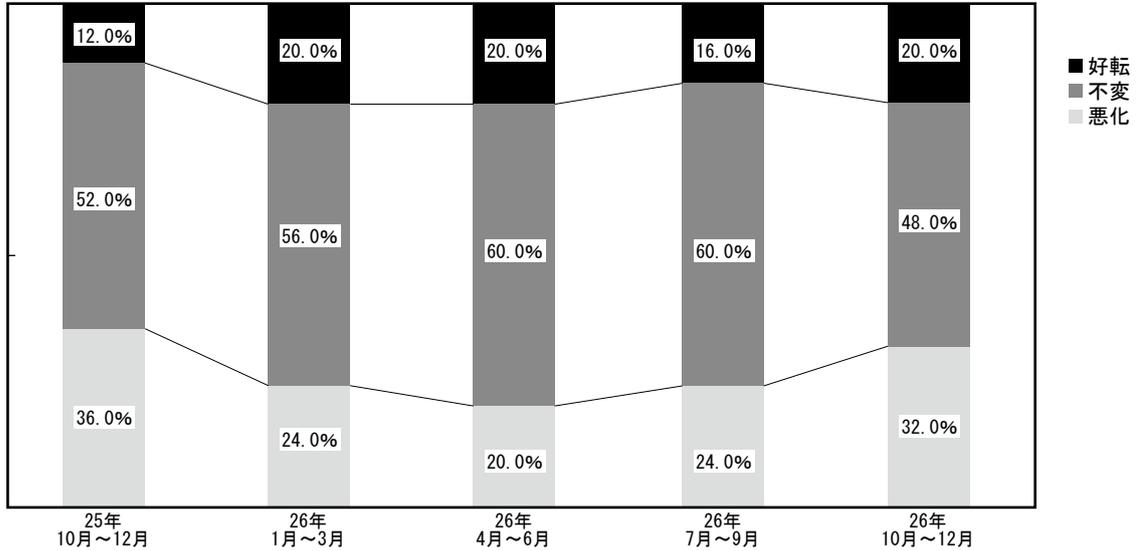
② 採 算（採算 DI の内容（回答企業数 25 社））

※ 本調査では、経常利益を「採算」として尋ねている。

「好転」と答えた企業の割合は、20.0%（5 社）と増加（前期比 + 1 社）している。

「不変」は 48.0%（12 社）と減少（前期比 ▲ 3 社）している一方、「悪化」は 32.0%（8 社）と増加（同 + 2 社）している。

山梨県 建設業 採算の状況—前年同期比—

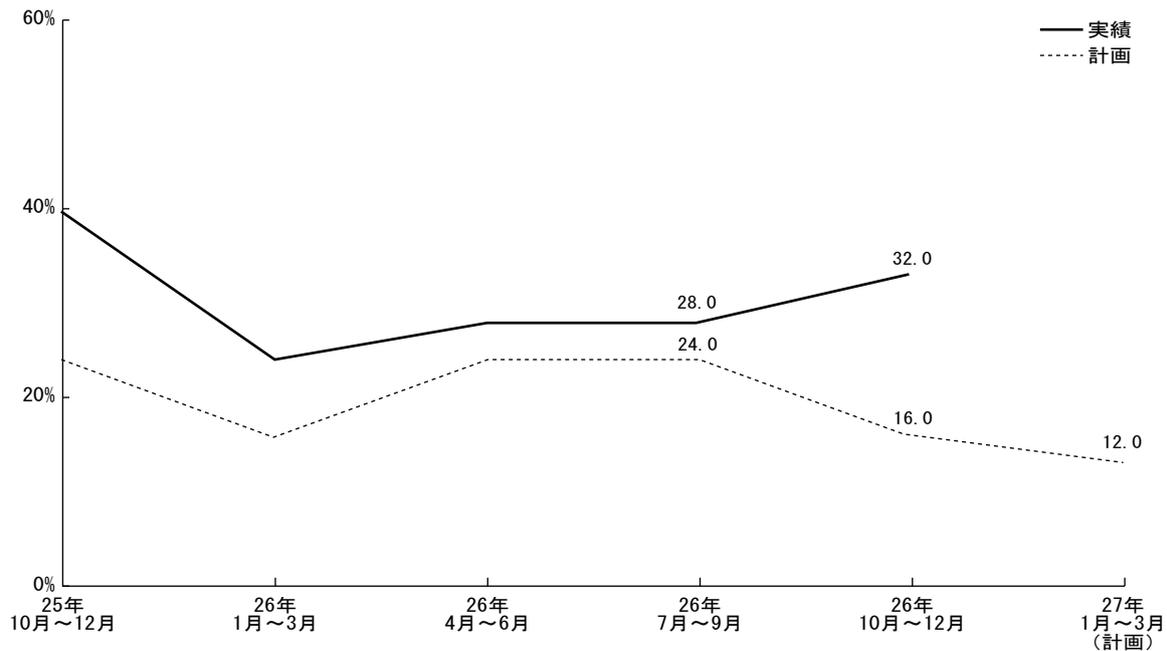


③ 設備投資（直近 1 年間における設備投資の状況（回答企業数 25 社））

今期において、設備投資を行った企業の割合は 32.0%（8 社）であった（前期比 + 4.0%）。その設備投資の内容は、「車両・運搬具」、「その他」が 3 件ずつ、「建物」、「OA 機器」が 1 件ずつであった。

来期の計画については、12.0%（3 社）の企業が予定している。その設備投資の内容は、「車両・運搬具」が 2 件、「OA 機器」、「その他」が 1 件ずつになる。

山梨県 建設業 設備投資の状況



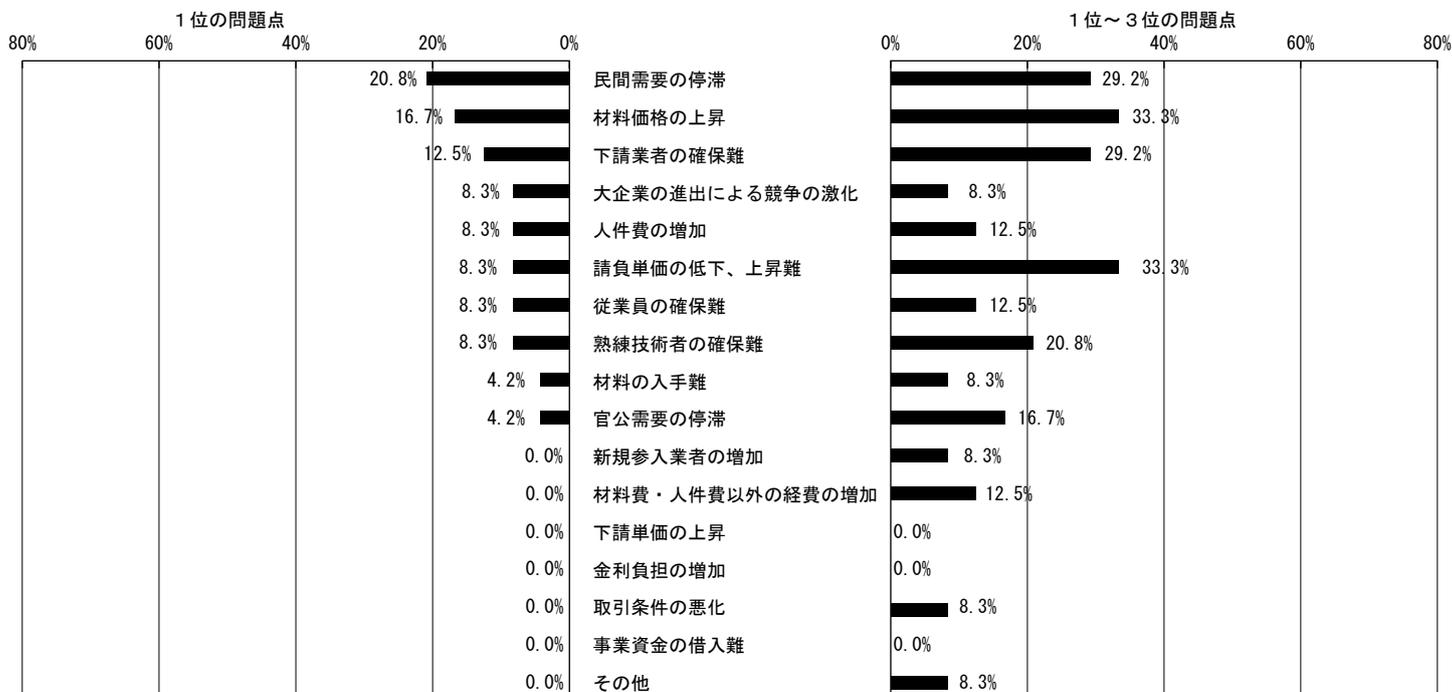
④ 経営上の問題点（回答企業数 24 社）

まず、経営上の問題点として、「1 位」に挙げられたものからみていく。

1 番目に多かったのは、「民間需要の停滞」の 20.8%（5 社）であり、2 番目に多かったのは「材料価格の上昇」の 16.7%（4 社）になる。

次に、「1 位～3 位」に挙げられたものをみる。1 番目に多かったのは、「材料価格の上昇」、「請負単価の低下、上昇難」（ともに 33.3%（8 社））であり、次に多かったのは、「民間需要の停滞」、「下請業者の確保難」（ともに、29.2%（7 社））と続く。

山梨県 建設業 経営上の問題点の状況



(5) 回答企業の内訳

業種別

業 種	企業数	構成比(%)
総合工事業	18	72
職別工事業	4	16
設備工事業	3	12
合 計	25	100

従業員規模別

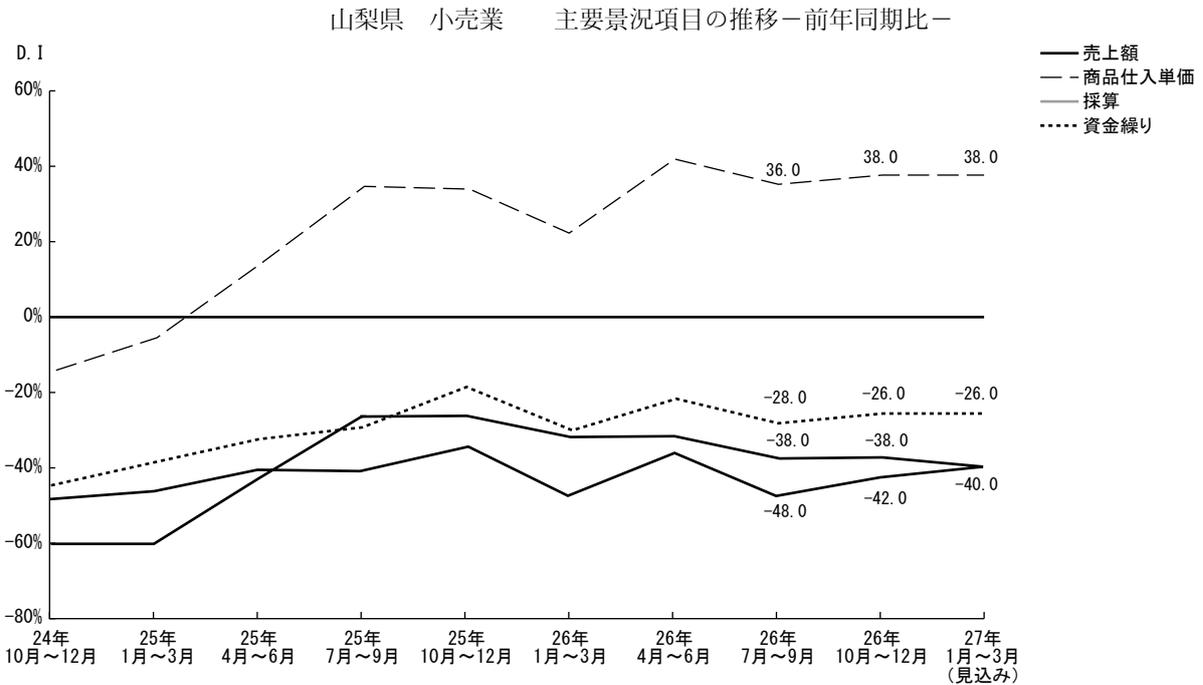
従業員数	雇用形態		臨時等含む	
	常 雇 い		企業数	構成比(%)
2 人以下	9	36.0	8	32.0
3 人～5 人以下	7	28.0	8	32.0
6 人～10 人以下	4	16.0	4	16.0
11 人～20 人以下	5	20.0	5	20.0
合 計	25	100	25	100

4. 小売業の動向

(1) 景況概観

売上額D Iについては、今期は▲ 38.0 と前期比で横ばい、来期の見通しは、▲ 40.0 とやや悪化の見通しとなっている。商品仕入単価D Iは、今期は38.0 と前期比で、2.0 ポイント増加（悪化）している。来期の見通しは、38.0 の横ばいとなっている。採算D Iは、今期は▲ 42.0 と前期比で6.0 ポイント改善している。来期は▲ 40.0 と更に改善する見通しとなっている。資金繰りD Iは、今期は▲ 26.0 と前期比で、2.0 ポイント改善している。来期の見通しは、横ばいとなっている。

今期、採算DIの改善がみられるものの、いずれの指標もほぼ横ばいとなっている。

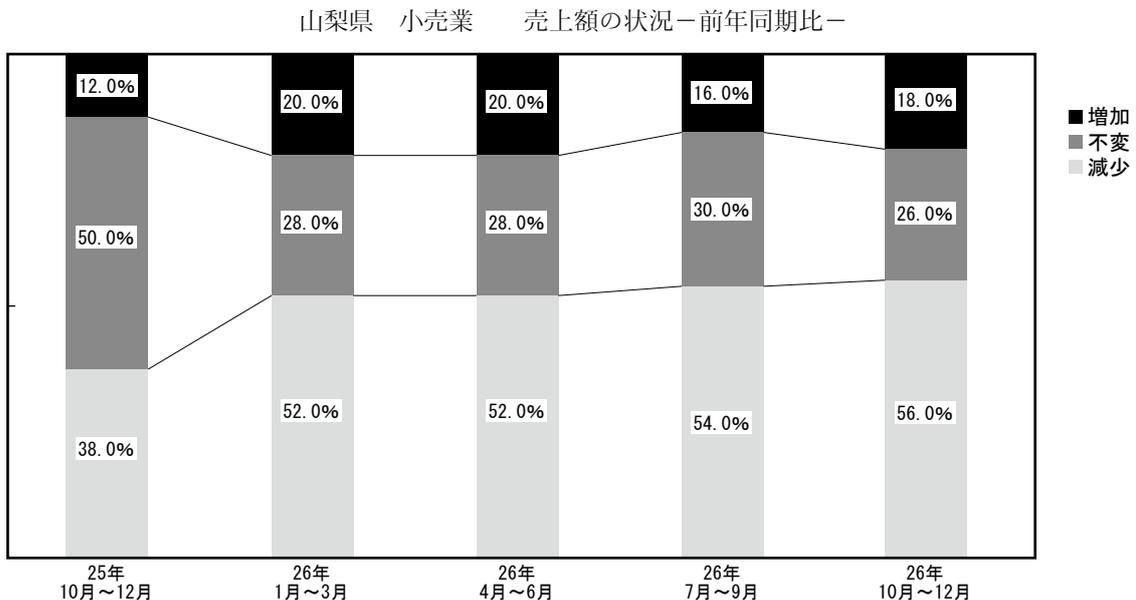


(2) 主な項目で見る業況

① 売上額（回答企業数 50 社）

「増加」と答えた企業の割合は、18.0%（9社）と増加（前期比 + 1社）している。

「不変」は26.0%（13社）と減少（前期比 ▲ 2社）し、「減少」は56.0%（28社）と増加（同 + 1社）している。



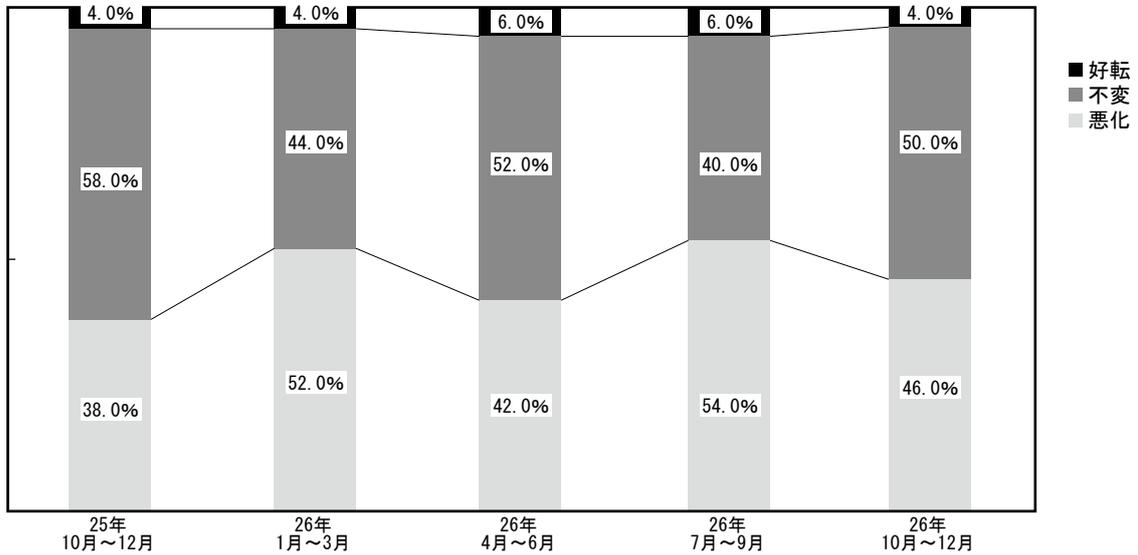
② 採算（採算DIの内容（回答企業数50社））

※ 本調査では、経常利益を「採算」として尋ねている。

「好転」と答えた企業の割合は、4.0%（2社）と減少（前期比 ▲1社）している。

また、「不変」は50.0%（25社）と増加（前期比 +5社）している一方、「悪化」は46.0%（23社）と減少（同 ▲4社）している。

山梨県 小売業 採算の状況—前年同期比—

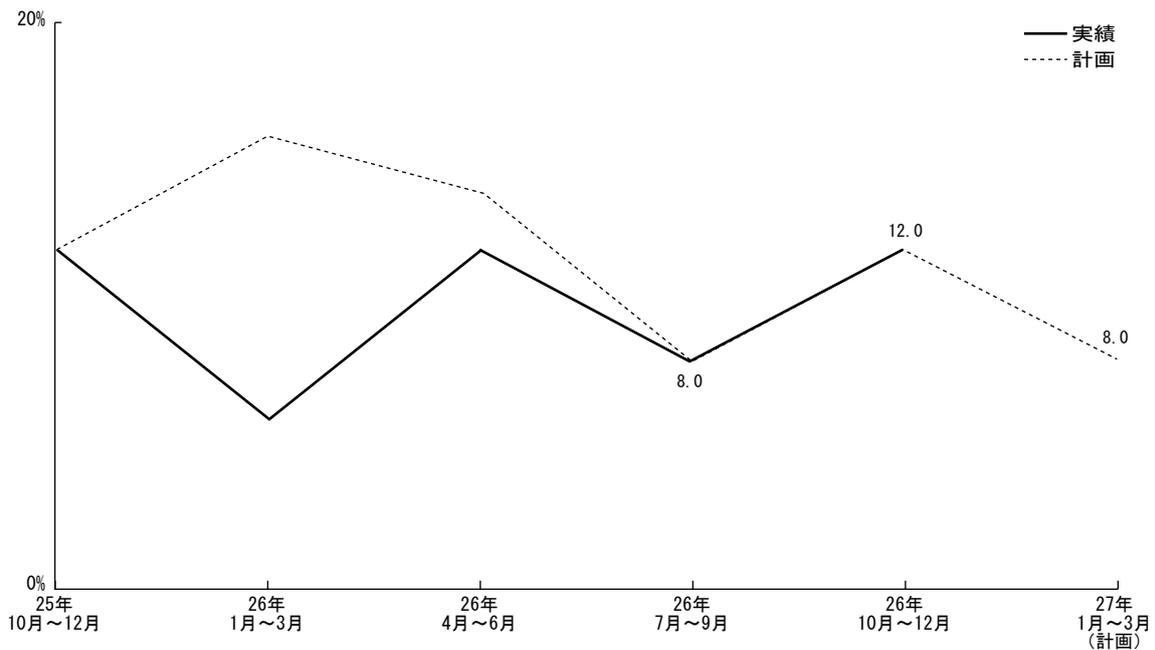


③ 設備投資（直近1年間における設備投資の状況（回答企業数50社））

今期において、設備投資を行った企業の割合は12.0%（6社）であった（前期比 +4.0%）。その設備投資の内容は、「車両・運搬具」が5件、「販売設備」が2件、「その他」が1件であった。

来期の計画については、8.0%（4社）の企業が予定している。その設備投資の内容は、「車両・運搬具」が2件、「販売設備」、「その他」が1件ずつになる。

山梨県 小売業 設備投資の状況



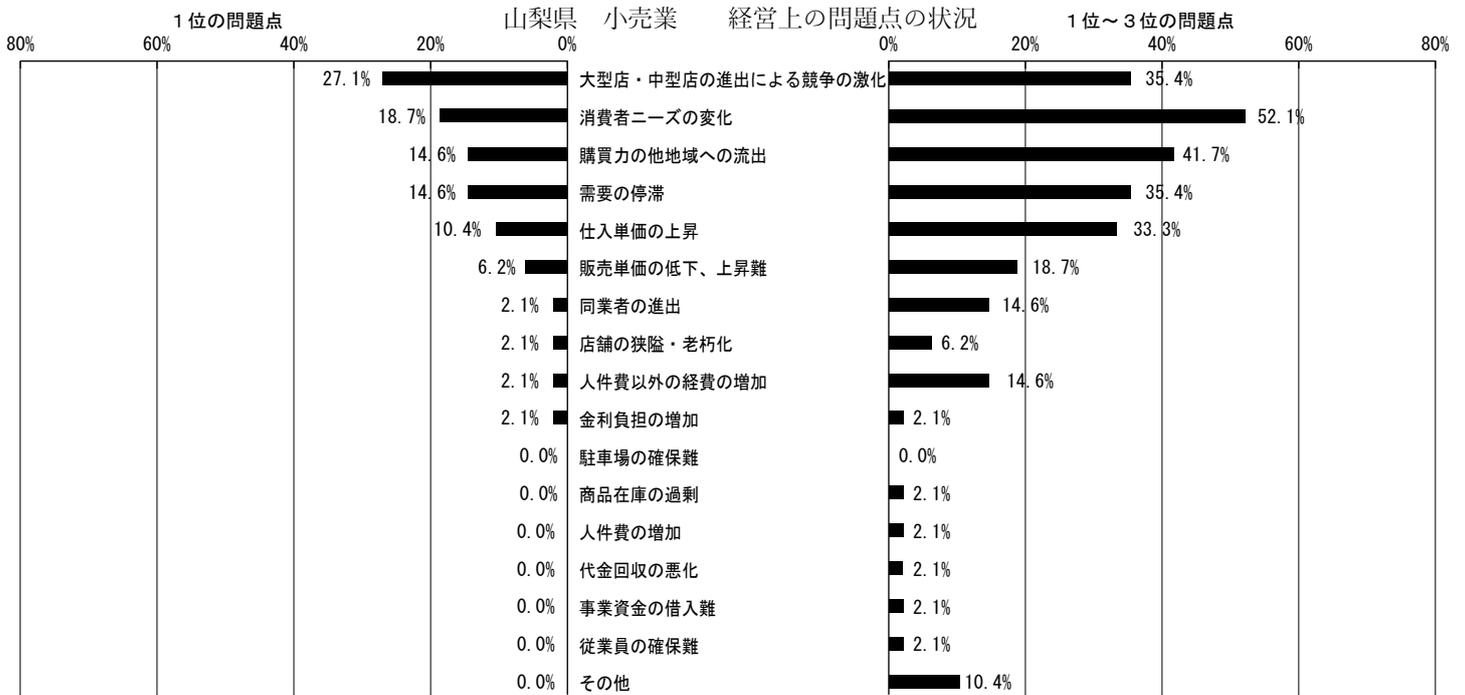
④ 経営上の問題点（回答企業数 48 社）

まず、経営上の問題点として、「1位」に挙げられたものからみていく。

1番目に多かったのは「大型店・中型店の進出による競争の激化」の27.1%（13社）であり、2番目に多かったのは、「消費者ニーズの変化」の18.7%（9社）になる。さらに、「購買力の他地域への流出」、「需要の停滞」の14.6%（7社）と続く。

次に、「1位～3位」に挙げられたものをみる。

1番目に多かったのは、「消費者ニーズの変化」の52.1%（25社）であり、2番目に多かったのは、「購買力の他地域への流出」の41.7%（20社）になる。さらに、「大型店・中型店の進出による競争の激化」、「需要の停滞」の35.4%（17社）と続く。



(5) 回答企業の内訳

業種別

業種	企業数	構成比(%)
各種商品小売業	0	0
織物・衣服・身の回り品小売業	11	22
飲食料品小売業	17	36
自動車・自転車小売業	3	6
家具・建具・じゅう器小売業	5	10
その他小売業	14	26
合計	50	100

従業員規模別

従業員数	雇用形態		臨時等含む	
	常	雇	い	
	企業数	構成比(%)	企業数	構成比(%)
2人以下	45	90.0	40	80.0
3人～5人以下	5	10.0	10	20.0
6人～10人以下	0	0.0	0	0.0
11人～20人以下	0	0.0	0	0.0
合計	50	100	50	100

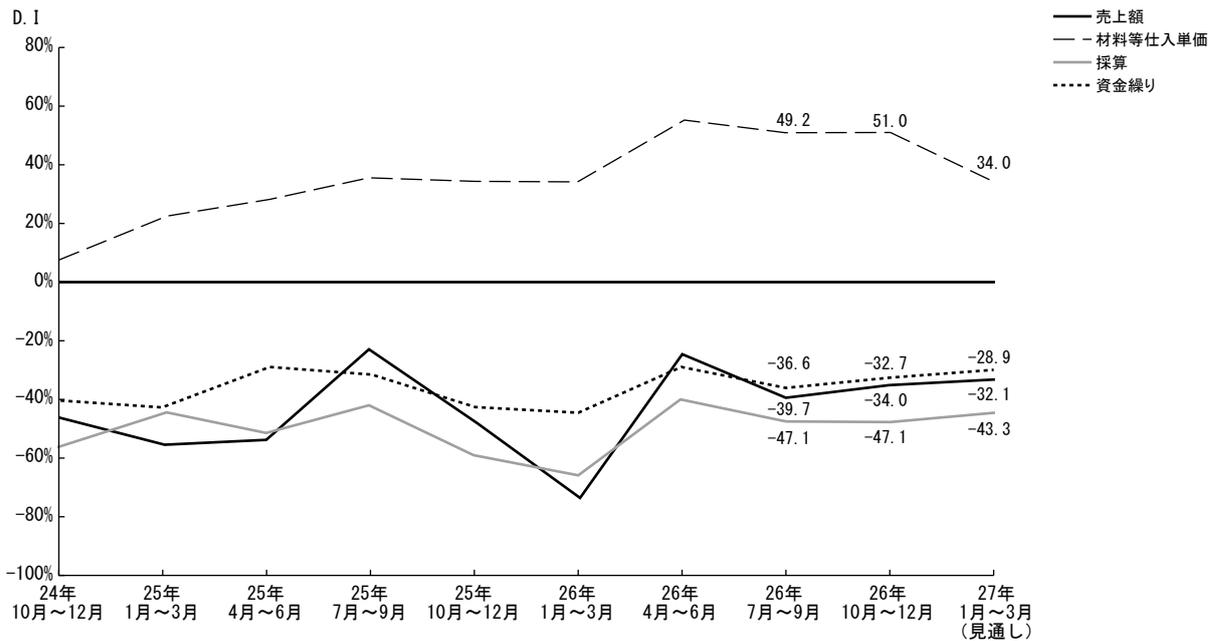
5. サービス業の動向

(1) 景況概観

売上額D Iについては、今期は▲34.0と前期比で5.7ポイント改善している。来期は▲32.1と更に改善する見通しとなっている。材料仕入単価D Iは、今期は51.0と前期比で、1.8ポイント増加(悪化)している。一方、来期の見通しは、34.0と大幅な改善となっている。採算D Iは、今期は▲47.1と前期比で横ばい、来期の見通しは、改善して▲43.3となっている。資金繰りD Iは、今期は▲32.7と前期比で、3.9ポイント改善している。来期は▲28.9と更に改善する見通しとなっている。

今期、及び、来期見通しについて、いずれの指標も改善傾向にある。

山梨県 サービス業 主要景況項目の推移—前年同期比—

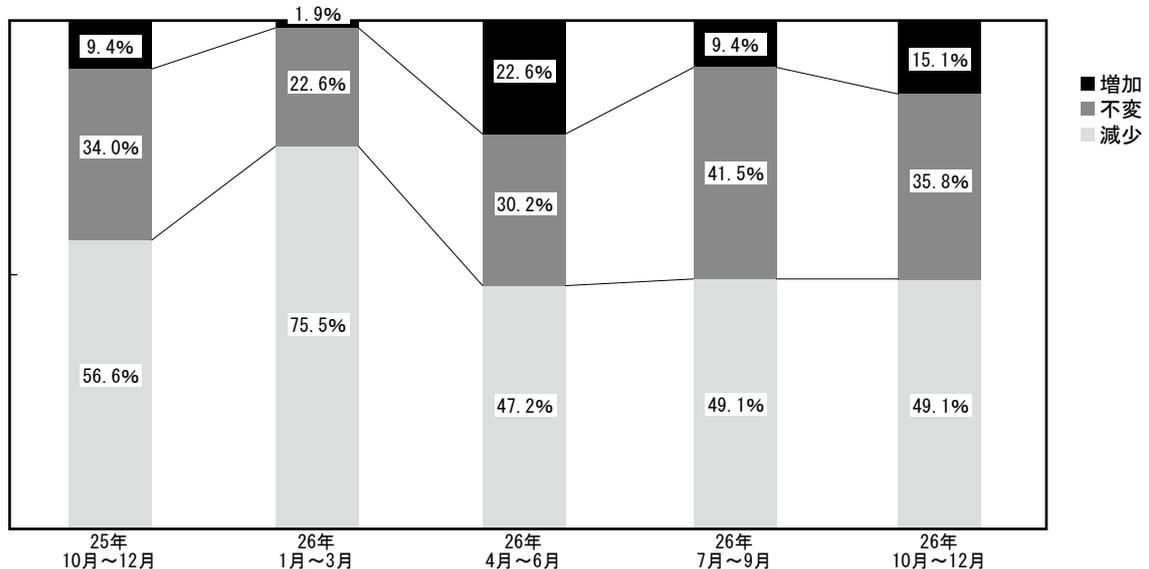


(2) 主な項目で見る業況

① 売上額 (回答企業数 53 社)

「増加」と答えた企業の割合は、15.1% (8 社) と増加 (前期比 + 3 社) している。一方、「不変」は 35.8% (19 社) と減少 (前期比 ▲ 3 社) している。「減少」は 49.1% (26 社) と横ばいとなっている。

山梨県 サービス業 売上額の状況—前年同期比—

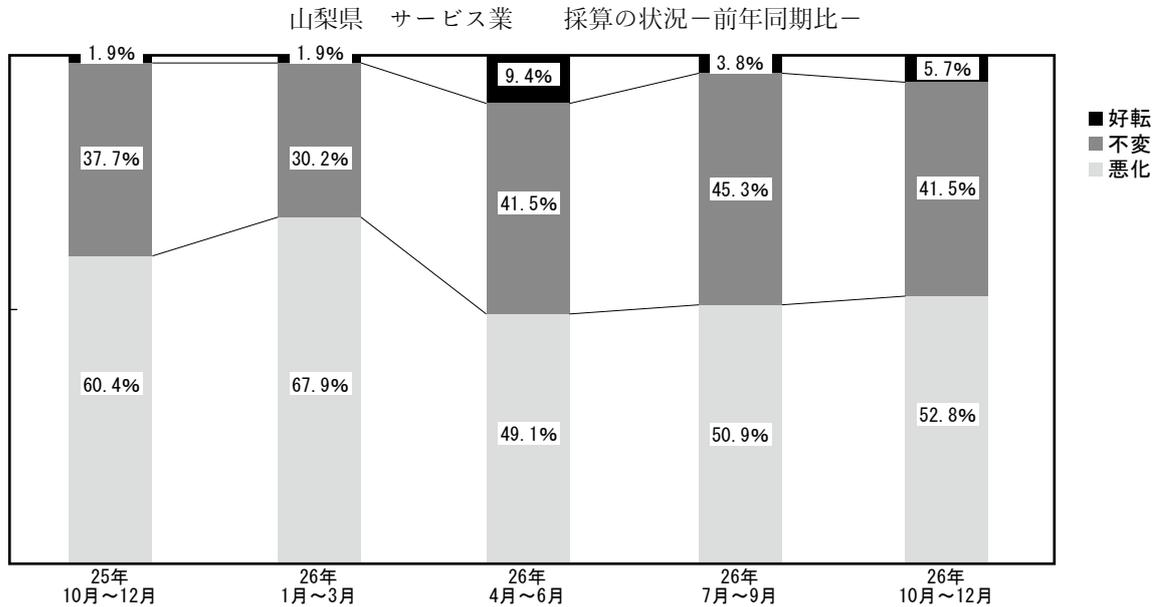


② 採算（採算DIの内容（回答企業数53社））

※ 本調査では、経常利益を「採算」として尋ねている。

「好転」と答えた企業の割合は、5.7%（3社）と増加（前期比 +1社）している。

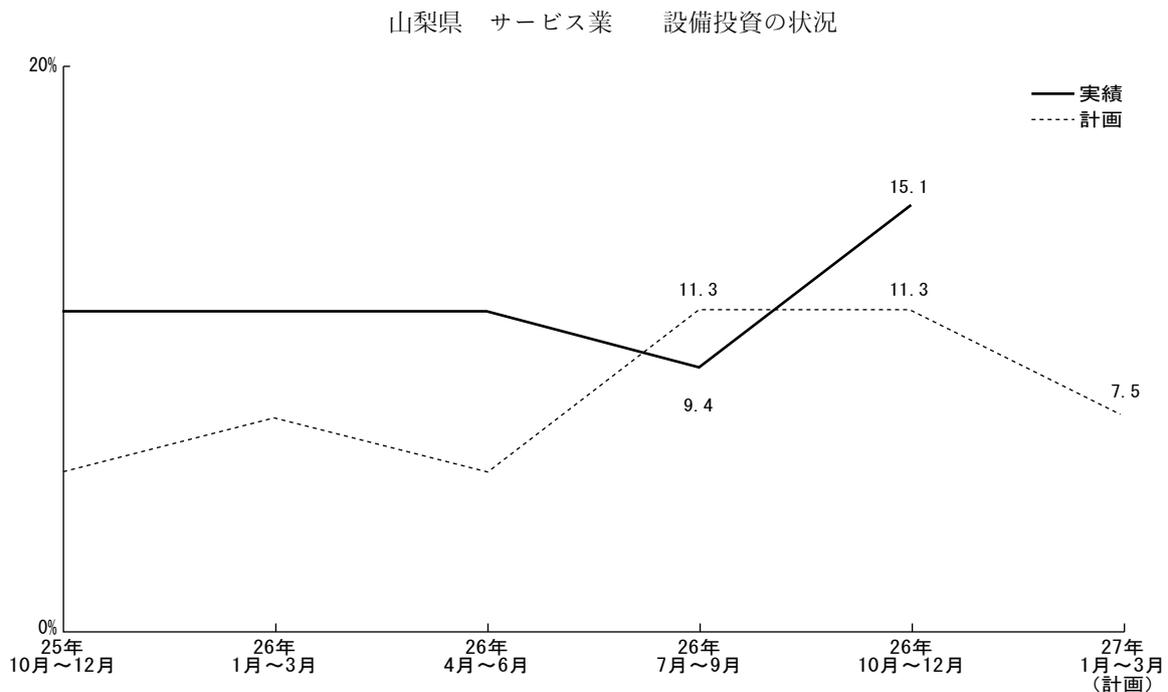
また、「不変」は41.5%（22社）と減少（前期比 ▲2社）している一方、「悪化」は52.8%（28社）と増加（同 +1社）している。



③ 設備投資（直近1年間における設備投資の状況（回答企業数53社））

今期において、設備投資を行った企業の割合は15.1%（8社）であった（前期比+5.7%）。その設備投資の内容は、「その他」が4件、「建物」が3件、「OA機器」が2件、「サービス」が1件であった。

来期の計画については、7.5%（4社）の企業が予定している。その設備投資の内容は、「サービス」、「車両・運搬具」、「OA機器」、「その他」が1件ずつになる。



④ 経営上の問題点（回答企業数 44 社）

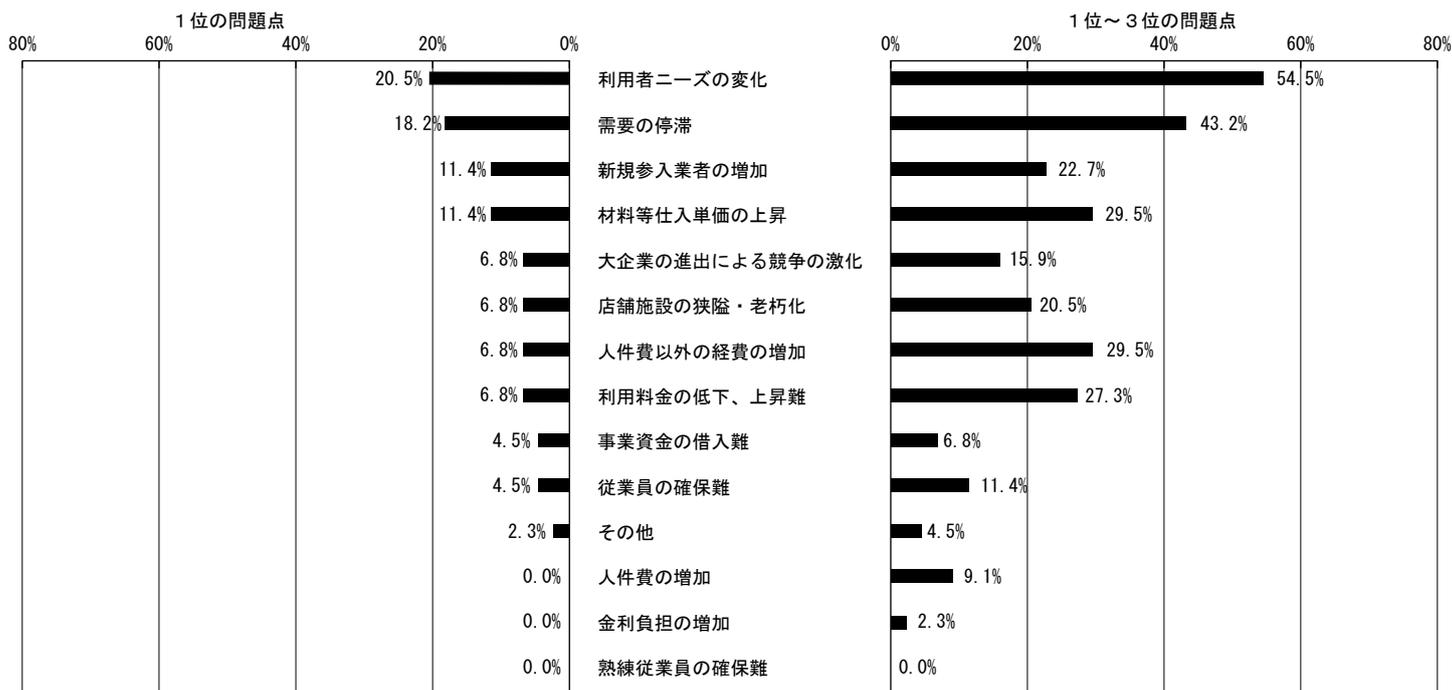
まず、経営上の問題点として、「1位」に挙げられたものからみていく。

1番目に多かったのは、「利用者ニーズの変化」の20.5%（9社）であり、2番目に多かったのは、「需要の停滞」の18.2%（8社）になる。次に、「新規参入業者の増加」、「材料等仕入単価の上昇」の11.4%（5社）と続く。

次に、「1位～3位」に挙げられたものをみる。

1番目に多かったのは、「利用者ニーズの変化」の54.5%（24社）、2番目に多かったのは、「需要の停滞」の43.2%（19社）になる。さらに、「人件費以外の経費の増加」、「材料等仕入単価の上昇」の29.5%（13社）と続く。

山梨県 サービス業 経営上の問題点の状況



⑤ 回答企業の内訳

業種別

業種	企業数	構成比(%)
一般飲食店（一般・遊興）	19	36
宿泊業	8	15
運送業	2	4
自動車整備業	3	6
洗濯・理美容業	16	30
その他のサービス業	5	9
合計	53	100

従業員規模別

従業員数	雇用形態		臨時等含む	
	常雇	い	企業数	構成比(%)
2人以下	44	83.0	40	75.5
3人～5人以下	9	17.0	13	24.5
6人～10人以下	0	0.0	0	0.0
11人～20人以下	0	0.0	0	0.0
合計	53	100	53	100